

吉和小・中学校の学校規模適正化に関する保護者説明会 要点

1 日 時

令和7年8月20日（水） 午後6時30分～午後8時15分

2 場 所

吉和ふれあい交流センター 2・3研修室

3 出席者

保護者：25名（うち中学生1名）

市教育委員会事務局

畑板教育部長、宮崎教育総務課長、古井学校教育課長、臼井学事・食育推進担当課長、教育総務課 川本事業調整監、上原主任

4 会議内容

- ・出席者紹介
- ・教育部長挨拶
- ・学校規模適正化について事業調整監から説明（PowerPoint のとおり）
- ・質疑応答・意見交換

5 質疑応答・意見交換の要旨

保護者A

子どもたちの学ぶ環境について、保護者の方で話し合いをしていきたい。今日は不安に思うことなど聞いていただきたい。アンケートを用意しているので、今日聞けなかったことがあれば提出してもらって、全員で回答を共有できればと思っている。

佐伯地域との統廃合を前提にという話だったが、これは確定のことなのか、現状を維持していただけるなど話し合う余地はあるのか。

事務局

市内全域から入学可能な小中一貫教育推進校という形で運営をしている中で、次の方法は統廃合になる。

児童生徒数の推移を見たときに、佐伯地域の学校と統廃合ということで、話を進めていかなければ、子どもたちの教育環境を改善することは難しいというのが市教委の考え。

市教委としては、まずは中学校から取り組むように考えているが、小学校も一緒にということで地域・保護者の皆さんから声があれば、小学校もセットでということとは考えていく。

保護者B

説明の中で、「改善」という言葉が出てきたが、「改善」とは悪いものを

保護者B	良くするということ。具体的にどういうことか。今が悪いということなのか。あと、統廃合によって同年齢の子だけのクラスになったときに、何が良くなるのか。
事務局	今が悪いということではない。今の環境では対応に限界があると考えている。今の学習の進め方は、子どもたちでグループを作って話し合って学びを深めることが重要とされている。子どもの数が少なくなっていくと、話し合うメンバーが固定化していくので、内容に広がりがない。 複数のグループでメンバーを変えながら、学習していける環境にしていきたいということで、改善という言葉を使っている。 それと、一学年一クラスとなったときに良くなる点であるが、学年単位の授業や学習活動がベースになってくる中で、一定程度の児童生徒数が必要になってくる。 グループで話し合いをしていくときに、学年で子どもの数が増えないと、話し合いも難しいというところで、各学年の人数を増やしていきたいというのが市教委の考え方。
保護者C	統廃合について、中学校・小学校で何年後というビジョンや目標があるのか。 仮に統合する、残すといった場合にかかる金額について知りたい。津田小に統合したらどれだけ減るのか、増えるのか、今後示してもらいたい。
事務局	何年までにやるということは決めてない。ただ、5年後には、子どもの数がかかり減ってしまうので、時間的余裕は厳しいと思っている。 1校当たりの平均コストは、年間で6,500万円ぐらい。人件費は含んでいない。吉和小・中学校に係るコストは持ち合わせていない。 学校を残していくと、建物のハード面についても予算が必要になってくるので、出しにくいところがある。検討させていただく。
保護者D	学校規模適正化に当たっての子どもたち、保護者への配慮というところで、学習面・精神面に配慮した体制づくりとは、具体的にどういうことをするのか。通学の支援とは、どこまでを考えているのか。途中で体調不良になった場合、体調不良なので迎えに来てと言われても、難しい部分も出てくる。 そういう面も含めた上での支援をよく考えていただきたい。
事務局	学習面・精神面に配慮した体制づくりは、具体的には学校同士で話をしながら進めていくところではある。方向性が決まった段階で、統合する学校との交流を図っていきたいと考えている。不安な気持ちを持っている子と重点的に関わりができるように、スクールソーシャルワーカーの派遣を

事務局	増やしたりすることも必要になってくると思う。実態に合った形でフォロー体制を作っていきたいと考えている。
事務局	通学支援について、一般的な登下校については、路線バスを活用して、金銭的なところは、市が持つというのが基本になる。 イレギュラーの場合については、まだ制度設計できていない。皆さんの声を聞きながら決めていきたい。これから交通事業者と話をし検討していく。
事務局	学校で体調不良になった際の迎えの話であるが、一律にすぐ来てもらえないと困りますというのは、状況的に難しいと思う。学校と話をし準備体制を整え、車の手配なども含め、対応について具体的に検討して進めていけるようにしたい。
保護者 E	事前交流や体制づくり、通学支援の内容は、委員会で決めるのか、話し合いの場が設けられるのか。
事務局	P T A・保育園の保護者会から代表メンバーを2・3人ずつ選んでもらって、自治組織の代表メンバーも選んでもらって、その代表のメンバーで集まって話をしていくというイメージ。そういう形で議論していきたいと考えている。
保護者 A	ずっと通常学級の話が出ているが、特別支援学級の通学者が小学校にいるような状況。どういう対応をする予定なのか。
事務局	通常学級と示している理由は、特別支援学級は、基本的に少人数で、学年に関係なく編成するという、特性に応じて編成することになる。学校規模適正化の議論をするときには、通常学級の数で話をするようになるため、資料には通常学級数を掲載している。 特別支援学級のことは考えないということではない。
事務局	他の学校でも特別支援学級で1人というところは、たくさんある。今と変わらず対応していく。 吉和学園を選んで通っているお子さんもいると聞いている。その子に合わせた形で、フォロー体制を作っていく。人数が増えて、苦しい思いをしているのに放っておくことはない。
保護者 F	子どもたちにとって望ましい教育環境の中の、各学年一定数の児童生徒数と書いてあるが、一定数とはどれぐらいの数字のことを考えているのか。 今の推計は、現時点の数で、将来例えば、子どもが増えてきた場合、こ

保護者 F	の計画は変わるのか。
事務局	一定の数というのは、基本方針の中では各学年何人という設定はしていない。複式学級の解消を目指していくとしている。 複式学級は、2つの学年合わせて16人以下だと、複式学級というのが学級編制基準の考え方。単純に2つの学年なので、2で割ると、1学年8人になる。1学年10人ぐらいいけば、複式にもならないし、グループも複数組むことができるので、10人というのが目安になると考えている。 移住定住が進んで、各学年10人ぐらいになれば、その時に見極めることになる。そうならない限りは難しい。
保護者 F	望ましい教育環境の1つに子どもの人数も確かにあると思う。ただ、複式の良さもあると思う。そして、近くに学校があるというのは大きな学校環境の良さではないか。小学生は特に、バスに乗って行って帰るだけで疲れる。 そういう環境をつくるのが、子どもにとって望ましい環境をつくることにはならない。 吉和に統合するということはないのか。吉和の子が佐伯に行くという前提になっている。逆はないのか。
事務局	複式学級の良さもあるが、今求められている授業を進めるには限界があるので、取り組みを進めていきたいというのが市教委の考え。 遠くに通う子どもたち、特に小学生の身体的な負担は大きいという認識は持っている。通学支援をしっかりとやっていきたいと思っている。子どもの負担を少しでも軽減させていきたいという考え方で、取り組んでいく。 佐伯の学校を吉和へ統合することは考えていないのかとの質問であるが、人数の多い学校の方へ統合していくという考え方が基本になる。また、施設の受け入れ、キャパシティの話もある。佐伯中だけでも134人となり吉和学園では難しい。
保護者 B	吉和中は佐伯中と統合、吉和小は津田小と統合で考えていると思うが、津田小がもし断った場合には友和小になるのか。
事務局	津田小が断るとするのは考えにくい。そうなれば津田小を説得する。友和小への統合は考えていない。
保護者 B	今後、吉和小と津田小が統合しても児童数が減ったときには、友和小と津田小が統合となるのか。
事務局	そういうことも考えていかないといけない。津田小もこれから学校規模

事務局	適正化に向けて動いていくが、津田小が複式になった、なりそうということになったときには、改めて、今度は吉和・津田の子どもたちで、教育環境をどうしていくかという話し合いをしないといけない。ただ、同じ子どもが小学校に通っている間に2回も統廃合を経験することは避けないとはいえないと考えている。
保護者H	統合するとなるとさくらバスで通うことになる。国道 186 号は、雨量の関係で止まったりすることもある。そういうときに子どもはどうするのか。 今であれば留守家庭児童会があって、18 時まで預かってもらえる。統合すると、津田の留守家庭児童会を利用しないといけないのであれば、お迎えのリスクがあるが、どう考えているか。
事務局	登校する前に、登校できない状況になったときには、オンライン授業の準備をするということもあるかもしれないし、臨時欠席にして、学習のフォローはまた後日するとか、具体的に考えていきたいと思っている。 登校後に、帰れないとなったときには、どういう対応できるのかということとは改めて考えていきたいと思う。
事務局	一番心配なのは、学校にいるときに大雨で国道 186 号が通行できなくなって、バスが止まった場合であり、課題として認識している。 1 つの大きな課題として、話し合いと並行して検討し、答えを出させてもらいたい。 留守家庭児童会は、学校への設置が基本になっているので、統合先の留守家庭児童会を利用してもらうことになる。 担当課と連携をして、皆さんに心配をかけしないような形で対応していきたいと思っている。
保護者A	資料にある授業の進め方は、吉和学園では統廃合をしないと、こういう授業ができないという認識でいいのか。 中学校が統廃合すると残るのは小学生だけで、少ない人数で学校の環境が保たれるのか。 その間どのように、吉和の子どもたちに教育を提供してもらえるのかというところを教えてください。
事務局	吉和小・中学校で全くできていないとは考えてない。限界があるということ。子どもたちの可能性を広げていくというところについての取り組みと捉えていただけたらと思う。 現在、中学校の先生が小学校の授業に入っているが、小学校だけ残った場合は、中学校の先生もいなくなるので、小学校の先生だけで、複式学級の授業内容をしっかりと深めていって、よりこれからの授業に近づいてい

事務局	けるように取り組んでいく。
保護者 A	中学校の先生がいなくなって、小学校の先生だけで、今よりも充実した授業は可能なのか。先生は働けるのか。
事務局	吉和小・中学校の先生と話をする中で、複式学級の指導について、研修の実施など、市としてしっかりフォローして欲しいという声もあった。充実できるように、フォローしていきたいと考えている。
保護者 G	大規模の学校の方が良いというのが、どうしてもしっくりこない。今、津田小が 1 クラス 10 人ぐらいで、そんなに大きく変わるのかと思う。それなら地元の学校でしっかり学んだ方がいい。大規模の良さもあるが、小規模な学校のいいところも絶対あると思う。 質問は、検討委員会は、規模適正化に向けての検討委員会なのか、それとも統合しない余地があって、こういうふうにしていこうという議論もできるのかどうかと言うことが知りたい。
事務局	結論から言うと、今の学校を残し続けてというのは、この状況では難しい。 基本は、佐伯地域の学校との統合に向けてということになる。 それと、大規模校でないといけないとは考えていない。学校を設置した経緯もあるし、地域の特性もあるので、小規模が悪いとは考えていない。 ただ、複式学級の規模になると、これからの学校教育を考えていったときに、子どもたちの学習面への影響が大きいということで、複式学級の解消をしていきたいということ。
保護者 I	複式学級と大規模校の学級の差について、文部科学省が出している全国平均学力検査では、平均点の差は見られないと思う。教育委員会として、複式学級を卒業した子どもたち、またそうでない子どもたちの将来の進路だったり進学とかのデータは持っているのか。 複式学級で人数が少ないというのが問題なのであれば、他の部署と連携して、統合という形ではなくて、もっと人を増やすという意味で、他の都道府県、海外からの留学や家族移住を促すとか、もっと子どもたちや家族を引込んでいくという教育プランの計画はないのか。
事務局	全国平均学力検査のデータがあるのは承知している。 進学については、誰がどこの高校に進学したのかというデータもあるので、その辺りを見ていけば整理できると思う。今手元にないので、今後整理していきたい。

事務局	人を増やす取り組みとして、中山間地域の振興とか、移住定住というのはやっている。例えばピンポイントで何年生を何人呼んでくるとかという計画があるかということ、そういった計画はない。 交通の話など、教育委員会だけでは対応できない部分も当然あるので、関係部局や中山間地域振興の部署とも情報を共有しながら、取り組みを進めていく。
保護者A	検討委員会等を立ち上げて、話し合いをする場を持つということと言われてたと思うが、必ずしもそこで統廃合を決定するわけではない。決定に至るプロセスを説明していただければと思う。
事務局	皆さんとの話し合いは、イメージとして、別組織を立ち上げて話をしていく。皆さんで話し合った意見を尊重した上で、最終的に決定をして、判断するのは、教育委員会。 教育委員で話をして、議決という形で決定をする。
保護者G	ここにいる保護者全員が反対をして、吉和小・中の保護者が全員反対したとしても、教育委員会で決定するという流れになるのか。
事務局	それはしたくないと思っている。だから、こういう場をできるだけ設けて話をしていきたいと思っている。
保護者G	教育委員会の方も、子どもたちの教育についてしっかり考えられると思うし、逆に保護者も考える。自分の子どもの教育を考える上で、どこで学ばせるのか、どういった形が一番いいのかというのを考える上で協議する。 でも最終決定は、教育委員会がする。保護者は反対していても、結局どこかのタイミングで、切られるというパターンになるのか。
事務局	可能性はゼロではないが、そういうことはしたくない。地域が反対と言っているのに十分に話をせずに切るということは思っていない。そのため期限を設定してない。しっかり話をさせてもらいたいと思う。 ただ、各学年が2人とか1人になった場合には、地域の皆さんに理解してもらいたい。そのまま何もしないわけにはいけないと思っている。
保護者G	検討委員会は、統廃合の方向なのか。 何か別の方法、海外からの移住とか、別の方法をその検討委員会の中で協議する余地はないのかというのが、さっきの質問の趣旨。 統廃合になったときに、交通費は期限なく全額出してくださいとかいうことを話し合っていく場であって、吉和小・中を残していくための話をする場ではないというイメージなのか。

事務局	その通りである。大前提として、皆さんとしっかりやりとりをしながら、100%にはならないかもしれないが、納得してもらうということがある。必要な支援であるとか、子どもたちの不安をどう軽減していくのかなどを話し合って決めていく場にしたいと考えている。
司 会	大変恐縮ですが、20時を過ぎたので、今日は終了させていただく。この説明会で、ご意見が出尽くしたという認識ではない。PTAでアンケートを行うとのことであり、そちらでご意見等をいただければと思う。 最後に、教育部長から一言申し上げる。
教育部長	皆さん、遅くまでありがとうございました。 今日の説明会が最後ではない。今後も、こういう話し合いをさせていただければと思っている。
閉 会	